

2021 夏季手当交渉 会社の考え

6月10日、2021夏季手当交渉「会社の考え」を行いました。以下、報告します。

会社・昨冬の水準（1,6ヶ月）をどこまで上回るようにできるか検討していく。

組合・昼夜を問わず安全安定輸送に努めている組合員に対し、誠意ある回答を強く求める。

2020年度は「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、「鉄道を基軸とした総合物流グループ」を目指し、鉄道ロジスティクス事業の業務刷新と収支改善の継続、更なる成長と発展に向けた各種施策を展開してきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、北日本・日本海側を中心とした暴風雪による津軽線等の断続的不通等の影響を受け、鉄道運輸収入は大幅減収となった。

これらの結果、経常利益は単体で+0億円、連結で+14億円と黒字はなんとか確保できたものの、対前年で▲70億円超を失った。

2021年度に入っても先行きは不透明であり、5月を終えた時点で運輸収入は、コンテナが91,7%（▲15,9億円）。車扱が95,3%（▲0,8億円）。コンテナ・車扱合計で92,0%（▲16,8億円）と計画を大きく下回っている。6月に入り、車扱が若干計画を上回っているものの、コンテナ・車扱合計で91,8%（▲2,7億円）。年度計で、約▲20億円と計画を大きく下回っている。経費については、現時点で具体的な数字はないが、輸送量に応じた輸送力変更（曜日運休の拡大や編成減車等）を実施しているところである。

コロナにより昨年5月頃の収入大幅悪化から、12月に向けては全体的に回復傾

向にあったが、今年1月以降の感染拡大・緊急事態宣言により、4月の成績は昨年4月と同様な水準にまで逆戻りした。昨年度（2020年度）は何とか経常利益を確保できたものの、一昨年度（2019年度）と比較して大幅に減益となっている。

一方で、コロナ対策が長期化していることに対し、社員が日々尽力していることを検討に織り込んでいきたいという考えはあり、「昨冬の水準をどこまで上回るようにできるか検討していく」以上が、会社の考えである。

組合・昨年冬の水準とは、1,6ヶ月という理解でよいか。

会社・その理解で良い。

組合・「どこまで上回るようにできるか検討していく」とあるが、回答日では1,6ヶ月以上の数値が必ず示されるという理解でよいか。

会社・現時点では「検討していく」という域を超えることは出来ない。必ず上回ると断言は出来ない。

組合・会社の状況が厳しいのは理解する。また、今後の見通しが全く不透明なことも理解できる。この厳しい局面を何とか打破するためにも労使が一体となって取り組んでいかなければならない。2021春闘では「ベア0」回答になり苦渋の選択を強いられた。2020年度の経営成績は、2019年度と比較して大幅に落ち込んだが、連結経常利益14億の黒字は確保した。この結果は、紛れもなく社員の頑張りであることを会社は強く認識しなければならない。組合員は昼夜を問わず安全安定輸送に努めている。「どこまで上回るようにできるか検討していく」とあるが、回答日には誠意ある回答を強くお願いしたい。

会社・貴組合の主張を受け止め、社内議論を深め回答したい。

以上
